

第2回笠間市消防団審議会 議事録

- 開催日時 令和6年8月27日（火曜日）午後2時00分から
- 開催場所 笠間市消防本部3階会議室
- 出席者 審議会委員11名、事務局5名
- 傍聴者 1名

【審議会議事録】

1 開 会

事務局

定刻前ではございますが、本日出席予定の皆様が揃いましたので、会議を開始させていただきます。本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。これより、消防団審議会条例に基づき、第2回笠間市消防団審議会を開会いたします。

それでは、議会成立のご報告を申し上げます。本日の出席者は、審議会委員12名中11名であり、審議会条例第5条第2項により過半数を超えていますので、議会は成立いたします。

ここで、資料の確認をお願いいたします。まず、表紙に第2回笠間市消防団会議資料と書かれております資料と次に、消防団実態調査アンケート結果報告書（25ページの資料）をお手元にご用意ください。また、現在の消防団員の現状に関する資料も合わせて確認してください。机の上に置いてございます。

それでは、資料の確認が済みしましたので、議事を進めさせていただきます。会長、ご挨拶をお願いいたします。

2 会長挨拶

会長

前回の会議では、皆様から非常に活発なご意見をいただき、大変有意義な会議となりました。ありがとうございました。本日は、事務局よりアンケート調査の結果を報告させていただきます。多くの団員の方々から具体的なご意見を頂戴できましたので、その結果を基に、今後の笠間市の消防団の在り方について皆様のご意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

3 協議事項

事務局

ありがとうございました。それでは、早速協議に入らせていただきます。会長に議事進行をお願いいたします。

会長

改めまして、よろしくお願いいいたします。では、まず最初に協議事項1「消防団の自治体に関するアンケート調査結果」について、事務局よりご説明をいただきます。

事務局

それでは、アンケート調査結果についてご説明させていただきます。事前に資料を送付させていただきましたが、改めて実態調査の結果について概要を説明いたします。まず、消防団実態調査アンケート結果報告書の1ページをご覧ください。こちらに調査概要が記載されております。このアンケート調査は、前回の審議会において、消防団の現状を把握するために必要だという指示を受け、実施したものです。調査はGoogle Formsを活用して行いました。調査期間は6月22日から7月13日までで、545名の団員中、401名から回答をいただき、回収率は73.6%となりました。

ここで、自由記載欄の内容については、原文のまま掲載しておりますが、あくまで記入者の主観であることを申し添えます。

それでは、2ページをご覧ください。

第1項目「回答者の属性」についてです。まず、回答者の性別の割合ですが、今回の調査では98%が男性、1.7%が女性でした。次に年齢についてですが、最も多いのは40代で、全体の47.9%を占めています。続いて30代が35.2%、20代が10.7%です。50代と60代以上はそれぞれ4.7%、1.5%と少なく、30代から40代が中心であることがわかります。

次に、消防団在籍年数についてです。最も多いのは10年以上20年未満で43.9%、次に5年以上10年未満が24.9%です。5年未満の在籍者も15%おり、新しく加入された方も多くいらっしゃいます。一方で、20年以上在籍している団員は少数で、特に30年以上の在籍者は2.5%にとどまっています。

続いて、職業についてですが、最も多いのは会社員で、55.9%を占めています。次いで、自営業が20.7%、公務員が10.5%、その他の職業としては団体職員、農業、林業、漁業などが含まれます。消防団には幅広い職業背景の団員が在籍していますが、その中でも会社員が多数を占めています。

それでは、3ページをご覧ください。

「入団動機と家族の理解について」です。まず、入団動機についてですが、最も多かったのは、元団員からの勧誘で、全体の68.3%を占めています。次に、先輩や知人、友人からの勧誘が16%、親族からの勧誘が5.5%でした。これらの結果から、消防団への入団は主に周囲からの勧誘が大きな動機となっていることがわかりま

す。また、地元の自治会や消防後援会の勧誘が4.2%、自ら志願して入団した方は3.5%と少数派です。その他の動機としては、強制的に入団させられた、上司の圧力があつた、報酬が得られるからといった意見も挙げられています。

これらの結果から、消防団への入団動機には地域の繋がりが強く影響していることが伺えます。

続いて、4ページをご覧ください。

「消防団に入団してどのように感じていますか」という質問についてです。最も多かった回答は、「幅広い年代や多くの人と知り合えた」で、全体の32.4%を占めています。多くの団員が消防団を通じて新しい人間関係を築ける点に価値を感じていることが伺えます。次に、「消防に関する知識や技術が身についた」と回答した方が25.2%でした。これもまた、消防団活動の大きなメリットとして挙げられます。

しかし一方で、「家族に負担をかけている」と感じている方が11.7%、「訓練や行事が多く、本業や生活に支障がある」と回答した方が11.2%、「自分の時間が少なくなった」と答えた方が10%おり、消防団活動が個人や家庭に与える負担を重く感じている団員も少なくありません。また、「判断がつかない」「参加できる時だけ参加しているが、地域の理解を得るのが難しい」といった意見も挙げられています。

続いて、5ページをご覧ください。

「消防団活動に対する家族からの理解は得られていますか」という質問です。最も多かった回答は「理解を得ている」で、全体の47.1%を占めています。次に、「積極的ではないが理解を得ている」という回答が35.7%あり、全体として8割以上の団員が家族から何らかの理解を得ていることがわかります。一方で、「どちらかという理解はない」が10.5%、「反対されている」が3.5%、「理解は全く得られていない」が3%という結果も示されており、約2割の団員が家族からの理解を得られていない現状も見受けられます。

次に、大項目3「消防団員の確保」についてです。「新入団員の確保について、あなたの考えは次のうちどれですか」という質問では、「現在も難しい、今後はさらに難しい」と回答した団員が最も多く、全体の7割以上を占めています。これにより、多くの団員が新入団員の確保に対して非常に厳しい状況であると認識していることがわかります。

また、「なんとか確保できているが今後は難しい」という回答が22.4%あり、これらを合わせると95.2%の団員が新規団員の確保について危機感を抱いている状況です。一方で、「わからない」と答えた方が3.5%、「今後も確保できると思う」という意見はわずか1.2%にとどまっています。

新規団員の確保が現在も難しく、さらに今後は一層の困難が予想されることが明らかとなっています。

続いて、6 ページをお開きください。

次に、「新規団員の確保の方法として、どのような手段を用いていますか」という質問についてです。最も多かった回答は、「団員の先輩、友人、知人を勧誘する」で、全体の 28.4%を占めています。続いて、「地域の方を直接勧誘する」が 28.3%と僅差で続いており、これら二つが団員確保の主要な手段となっていることがわかります。

「元団員の親族を勧誘する」と答えた方が 17.4%、「自治会や消防後援会に依頼する」が 13.1%となり、勧誘活動においては、既存の人間関係や地域のネットワークが重要な役割を果たしていることが示されています。一方で、「地元のイベントで呼びかける」や「ホームページや SNS で呼びかける」などのデジタル手段は比較的少数派であり、依然として地域のネットワークを通じた勧誘が主流であることが明らかです。また、勧誘の難しさを感じている団員からは、「給料が出ないから入りたくない」や「勧誘に行っても会えない」などの意見も上がっています。

続いて 7 ページをお開きください。

次に、「団員確保の支障となっていることがあれば教えてください」という質問です。この質問で最も多かった回答は、「仕事や私生活を理由に入団を断られる」で、全体の 35.6%を占めています。これにより、多くの人々が仕事や生活の都合で消防団に参加することが難しいと感じていることがわかります。続いて、「消防団のイメージが悪く入団を断られる」が 20.4%、「地元意識の低下により入団を断られる」が 14.4%と続き、これらの要因が団員確保の大きな障害となっていることが示されています。

また、「消防団の活動内容が認知されていないため入団を断られる」が 12.9%、「勧誘に行っても会えない」が 12.0%といった回答も見られ、消防団の活動内容の認知度向上に課題があることが伺えます。その他、「忙しそう」「強制参加と思われる」「対象者が地元にいない」「若者が消防団を知らない」といった意見も上がっており、これらが団員確保の支障となっていると認識されています。

続いて、8 ページをお開きください。

次に、大項目 4「分団の統合再編について」です。まず、「あなたの分団の人数は活動に対して足りていますか」という質問についてですが、この質問では、「不足している」と感じている団員が最も多く、全体の 39.7%を占めています。また、「不足していて活動が困難」と答えた団員も 5.5%おり、合わせて 45.2%の団員が何らかの形で人員不足を感じていることがわかります。

一方で、「足りている」と感じている団員が 34.7%、「十分足りている」が 9.7%であり、合わせて 44.4%の団員は現状の人数に満足していることが示されています。この結果から、分団ごとに人員の状況が大きく異なることが伺えます。また、「わからない」と答えた団員が 8.7%、「その他」が 1.7%となっており、一部の団員は分団の人員状況に明確な認識を持っていないことも示されています。

次に9ページをお開きください。

「平日昼間に出勤がかかった場合、あなたは出勤できますか」という質問に対してですが、この質問では、「場合によっては出勤できる」と答えた団員が最も多く、全体の52.4%を占めています。多くの団員が状況次第では出勤可能であることがわかります。一方、「出勤できない」と答えた団員も36.2%おり、平日昼間の出勤が困難な状況にある団員が約3割存在していることが示されています。

また、「すぐに出勤できる」と答えた方は11%であり、即時対応が可能な団員は1割程度にとどまっています。次に、「出勤できない」と答えた場合の理由についてですが、最も多かったのは「勤務先が遠いため」と「仕事が忙しく出勤できる状況ではないため」で、それぞれ38.6%を占めています。また、「会社や上司の承諾を得られない」が7.6%、「欠勤扱いになるため」が6.9%と続いています。

これらの結果から、平日昼間の出勤に関しては、仕事との兼ね合いが大きな課題であり、出勤可能な団員を確保するための対策が求められることがわかります。

続いて10ページをお開きください。次に、「分団の統合再編についてどう思いますか」という質問についてですが、「現状のままで良い」と回答した団員が最も多く、全体の37.4%を占めています。一方で、「将来は統合すべき」と答えた団員が31.7%、「すぐに統合すべき」と回答した団員が14.2%で、合わせて45.9%の団員が将来的な統合の必要性を感じていることがわかりました。また、「わからない」と答えた団員が16.7%おり、明確な意見を持っていない団員も一定数いることがわかりました。

次に、「統合する場合の時期はいつが適当だと思いますか」という質問に対してですが、「すぐに実施すべき」と考える団員が23.4%、「3年後」「5年後」と答えた団員がそれぞれ17.9%、「10年後」が5.4%でした。「わからない」と答えた団員が29.3%おり、適切な統合時期については意見が分かれていることが示されています。

続いて12ページをお開きください。

次に、「将来統合すべき」と選択した団員に対して、「統合する場合の希望はどれが適当だと思いますか」という質問ですが、最も多くの団員が選択したのは「近隣の2~3分団の統合」で、全体の61.4%を占めています。これにより、多くの団員が、近隣の2~3分団の統合が最も現実的で実行可能な選択肢と考えていることがわかります。

続いて、「小学校区での統合」を選んだ団員が21.7%、「中学校区での統合」が2.7%と続いています。これらの区に基づく統合は少数派です。「わからない」と答えた方は13%おり、明確な意見を持っていない方も一定数存在することが示されています。また、「統合については一時的な緩和策に過ぎない」「統合すると団員数が減る」「分団の枠をなくす提案」などの意見もありました。

これらの結果から、分団の統廃合に対する意見が分かれていることが明らかとな

り、統合のタイミングや規模についてはさらなる議論が必要であることが示されています。

続いて 13 ページをお開きください。

次に、「分団に配備されている現在のポンプ車の性能に満足していますか」という質問についてです。この質問では、「はい」と答えた団員が最も多く、全体の 6 割を占めています。多くの団員が現行のポンプ車の性能に対して満足していることがわかります。一方、「いいえ」と答えた方が 22.9%おり、4 分の 1 の方が性能に不満を感じていることが示されています。また、「わからない」という方が 17.5%おり、現行のポンプ車が基本的には多くの団員に受け入れられている一方で、不満の声も少なからず存在し、今後の改善が求められることが示唆されています。

続いて 14 ページをお開きください。

次に、「現行のポンプ車に代わる小型可搬ポンプ積載車の導入についてどう思いますか」という質問ですが、「今のままで良い」と答えた団員が最も多く、全体の 36.7%を占めています。現行のポンプ車を維持することを希望する団員が多いことがわかります。一方で、「一部導入すべき」と答えた方が 27.9%おり、部分的な導入を検討する意見も多く見られます。

また、「わからない」と答えた団員が 24.7%おり、小型可搬ポンプ積載車の導入に対しては、判断がつかない団員が一定数存在することが示されています。「全分団導入すべき」と考える団員は 9.5%で、全体的な導入を支持する声は少数派となっています。これらの結果から、現状維持を希望する声が最も多い一方で、部分的な導入や全分団での導入を検討すべきとの意見もあり、導入に対する意見が分かれていることが明らかになりました。

続いて 15 ページをお開きください。

次に、「小型可搬ポンプ積載車の利点や懸念について自由に記載してください」という質問に対して、61 件の回答がございました。

いくつかの大きなカテゴリーに分けて集計しましたが、この設問において最も多く挙げられた利点は「機動性が高い」という点であり、全体の 34%がこれを挙げています。狭い道や場所での活動がしやすくなることが評価されているようです。また、運転のしやすさについても 11%の団員が「普通の免許で運転できる」「運転がしやすい」といった点を利点として挙げています。

一方、懸念点としては「水利の確保が難しい」「維持費の負担が心配」「初期消火に時間がかかる」「使用方法の習得が必要」といった意見が全体の 20%に見られました。これらの懸念は、特に小型車両の性能や運用面での不安が中心となっており、小型可搬ポンプ積載車の導入に際しては、その機動性という利点を生かしつつ、消火能力や運用面での懸念を解消することが重要であることがわかります。問 16 については以上です。

次に 16 ページをお開きください。

大項目 6「消防団員の負担について」という項目です。問 17「消防団の行事について、負担を感じているものを 3 つまで選んでください」という質問ですが、最も多くの回答を得たのは「ポンプ操法訓練」であり、7 月から 10 月に実施されるこの訓練に対して全体の 30%が負担を感じていると回答しています。次いで「消防出初式（1 月）」が 20.5%、「秋季訓練（12 月）」が 9.0%となっています。また、「置き場点検（10 月）」が 8.6%、「夏季訓練（5 月）」が 8.1%、「分団長研修（7 月）」が 8.0%と続いており、これらの行事に対しても負担を感じている団員が多いことがわかります。この結果から、特にポンプ操法訓練に対して多くの団員が負担を感じていることが明らかです。訓練にかかる時間と労力が主な負担要因であると考えられます。

次のページをお開きください。

次に問 18「消防団の行事について重要であると感じているものを 3 つまで選んでください」という質問ですが、この質問でも先ほどと同じ項目で選んでもらっています。この設問において最も多くの回答を得たのは「夜警」で、全体の 29.5%がこれを重要と感じています。次いで「消防出初式（1 月）」が 15.7%、「夏期訓練（5 月）」が 14.8%と続いており、これらの行事が多くの団員にとって重要であると認識されています。次に「団員懇親行事」が 12.4%、「置場点検」が 11.3%と続いており、これらの行事も多くの団員にとって重要と考えられています。この結果から、多くの団員が地域や消防団の伝統を守るための行事を重要視していることがわかります。ただし、これらの行事に参加することが負担となる場合もあり、行事の重要性と団員の負担のバランスを取ることが今後の課題と言えます。

問 18 については以上です。

続いて 18 ページをお開きください。

次に問 19「ポンプ操法訓練について感じていることを選んでください」という質問についてですが、「大会出場を希望制にする」と答えた団員が最も多く、全体の 40.6%を占めています。多くの団員がポンプ操法訓練に負担を感じており、参加を希望制にしたいと考えていることがわかります。次いで「操法訓練の代わりに実践に近い訓練の充実を図る」と答えた団員が 27.9%で、従来の総合訓練に代わってより実践的な訓練を求める声が強いことも示されています。一方、「今まで通りで良い」と現状維持を望む団員は 15.0%にとどまり、全体としては、総合訓練に対する見直しが必要とされることが明らかです。

これらの結果から、総合訓練に対する負担軽減や訓練内容の見直しが求められていることが明確になりました。また、その他の意見としても、総合訓練に対して否定的な意見が多く見られました。

続いて 19 ページをお開きください。

最後の質問です。問 20「その他、消防団活動全般に関してご意見がありましたら自由に記入してください」という任意の項目です。こちらについても多くの意見が寄せられましたが、大きく分けて分類しました。19 ページには 16 の分類がありますが、その中で最も多かったのは「訓練の負担に関する意見」であり、全体で 18 件が寄せられました。特に訓練の頻度や時間が家族や仕事に与える影響について、不満や懸念を持つ団員が多く、訓練の見直しや負担軽減が求められていることがわかります。次に「報酬・活動費に対する不満」が 15 件寄せられており、報酬の低さや活動費の不足に対する改善要望も目立ちます。また、「ポンプ操法訓練や大会への不満」「出動体制や人員配置の問題」などの意見も寄せられています。

これらの意見を総括すると、多くの団員が訓練や報酬、出動体制などに対して負担や不満を感じており、これが今後の課題として浮き彫りになっています。以上、問 1 から問 20 までについて説明いたしました。結果報告については以上です。

会長

ありがとうございました。このアンケート調査に基づいて、皆様から、今後の笠間市の消防団がどのようにあるべきかについてご意見を頂戴したいと思います。アンケート調査は幅広く行われており、2 ページ目の大項目に 1 から 7 までのテーマが書かれています。1 は団員の属性に関する内容ですが、まずは「2. 入団の動機と家族の理解」「3. 団員の確保」について、アンケート結果に関わらず、団員の確保や家族の理解に関するご意見や感想がありましたら、ぜひお聞かせください。

また、今後どのようにして団員の確保や家族の理解を進めていくかについて、新たなご提案や、これまでのご経験の共有でも結構です。ご意見をいただけますでしょうか。

委員

アンケート結果を踏まえ、私自身の経験から申し上げますと、若い頃から消防団に従事してきました。地域で何かがあった時には、お互いに協力して災害に対処するという意識が強く、地域全体が消防団の活動に非常に理解を示していました。しかし、令和に入り、この笠間市では大震災以外の大きな被害は少なく、比較的平和な地域となっています。平和な時期には、消防団が巡回や訓練以外に何をしているのかが地域の人々には見えにくくなり、消防団の必要性が薄れているように感じられます。

しかし、いざ隣家が火事になった際には、消防団が一生懸命活動し、火が広がらないように努めることで、地域の人々に消防団の重要性が再認識されます。最近では災害が少ないため、私たちが行っている活動が地域の人々に伝わっていないという状況です。たとえば、先日の雷による火災出動時には、私たち団幹部や団員は迅速に対応し、現場に駆けつけました。

その後、夜中2時過ぎに帰宅し、さあ寝ようかと思っていたところ、今度は3時に稲田で火災が発生しました。我々は再び出動し、今度は別の分団と協力して活動を行いました。しかし、これらの活動が近隣の住民には全く知られていません。消防団が活動していることや、消防署も一晩中2か所の火災を消火するために徹夜で対応していること、そしてその間をカバーするのが我々消防団であるという自負を持って皆が一生懸命取り組んでいるのですが、その事実が伝わっていないのです。

やはり、消防団のアピールが上手くないという語弊がありますが、積極的にアピールしようとはしていないのが現状です。ただ、家族や地域の人々が、自分の近くで災害が発生した時に我々が全力で対応しているという理解があれば、もっと若い人々も参加してくれるのではないかと思います。消防団の活動は一年中365日あるわけではなく、年間に10日から15日程度ですから、それならばやってくれるのではないかと考えています。この理解を広めるための方法について、我々も今考えているところです。

アンケートの結果でも、若い人たちの参加率が低下していることが示されていますが、自分たちが貢献していることが理解されていないように感じます。現役の分団の若い人たちにも、この活動がいかに重要であるかをどうにかして伝えたいと考えています。しかし、少子高齢化で人口が減少し、若い人たちも減ってきている中で、この地域を守るための消防団員がいなければ、何もできなくなってしまいます。そのためには、装備や技術、意識が必要であり、これを若い人たちに伝えていくことが重要です。

また、将来的には分団を大きくして、現在の15名から20名に増やし、負担を軽減しながら誰かが出動できるようなチームを作り、再編成することも検討すべきだと思います。チームワークが重要であり、将来のための設計を今やっっていないといけません。皆様のご意見を参考にしながら、将来に向けた消防団のあり方を考えていきたいと思っていますので、アドバイスをいただければ幸いです。

根底にある問題は、人手不足です。その点も踏まえながら、笠間市全体の地域防災組織のあり方を考えていく必要があると思います。若い人たちが自分たちが大事な役割を担っていると理解してもらえるようにすることが重要だと感じます。少し話が長くなりましたが。

会長

はい。地域の方々、特に若者の理解を得るためには、こういった広報活動や認知活動を進めていくべきかというご指摘が一つ目としてありました。二つ目のご指摘は、分団の再編成や災害対応に関わる組織のあり方についてです。消防団が重要な役割を担っているにもかかわらず、その役割が一般の方々、特に消防団員の家族や友人には必ずしも認知されていないという現状があるかもしれません。その中で、消防団の認知や役割の重要性をどのように認識してもらうか、何かアイデアや難し

さがあれば、ご意見をいただければと思います。

委員

今の若い人たちに消防団の認識を高めるためには、例えば学校行事や成人式など、若者が集まる機会に「消防団は地域を守るためにこんな素晴らしい活動をしている」ということをアピールするのが良いと思います。単に「消防団に入ってください」と呼びかけるだけでなく、その素晴らしい活動を知ってもらうことで、若い世代に広めていくことが重要ではないでしょうか。

会長

成人式は地元の若者が集まる重要な機会ですので、そういった場で現役の団員の方々にお話や経験談を披露していただくのも良いかもしれません。チラシを配るだけでなく、実際に現場で活動している団員さんの生の声を届けるなどが効果的だと思います。

副会長

以前は自営業の方がかなり多かったのですが、今の若い人たちは会社勤めをしている方が非常に多いです。このアンケートでも、会社に勤めている団員が多いということが示されています。私が若い頃、消防団員はほとんどが地元で商売をしている人たちでしたが、今は若い人たちの多くがサラリーマンです。そのため、地元に貢献する意識が自然と育まれていた時代とは違い、団員の確保が難しくなっているのだと思います。

さらに、家族の理解が得られにくいという問題もあります。以前は親子で同じ家に住んでいたことが多かったのですが、今は若い人たちが別々に暮らしていることが多いです。そのため、特に奥さんの影響が大きいのではないかと感じています。これを踏まえ、若い人たちの友人同士での意識改革が必要だと思います。

また、現在、行政区に加入していない世帯が各地域で増えていることも問題です。以前は、地域に住んでいればその地域の行政区に加入するのが当たり前でしたが、今は加入していない世帯も少なくありません。これらの問題を考慮しながら、団員の確保を進めていく必要があります。先ほど委員さんからもありましたが、若い人たちが集まる場で消防団の活動を理解してもらうための積極的な広報活動が今後必要になってくるのではないかと感じています。

ちなみに、私たちの後援会でも、消防団からの要望として「もう少し活動費を上げてほしい」という意見がありました。後援会としては、これまでに結構な額を支出しているという認識があったのですが、団員からは活動費が少ないという声がありましたので、これをお伝えしておきます。以上です。

会長

ありがとうございました。今のご指摘に関連しますが、消防団員がどのような職業に就いているのか、会社勤めの方が増えている現状があります。9ページに戻りますが、次の大項目として、昼間の出動が難しい場合についての質問があります。昼間に出動できない理由としては、「勤務先が遠いため」というものが最も多く、その地域に昼間にいることが難しい方が多いことが分かります。また、「会社や上司の承諾を得られない」「欠勤扱いになる」などの理由もあり、勤務先の理解を深めることが大きな課題となっています。

また、若者を消防団に引き寄せるためには、接触機会を増やすことが重要だと考えました。ありがとうございました。

委員

よろしいですか。アンケートを見たところ、もっと否定的な意見があるのではないかと心配していましたが、正直なところ、肯定的な意見が多く安心しました。家庭内での理解不足に関しても、10%前後の割合であり、これは予想よりも良い結果だと感じました。

全体的に見ると、否定的な意見がそれほど多くなかったように感じます。問題を分類するとすれば、消防団全体の問題、分団の問題、そして大きな社会状況が背景にあると思います。社会状況、たとえば少子高齢化などはどうしようもない面がありますが、行政が積極的に取り組めることを考えていくべきです。

例えば、現在の操法大会に関して、費用が相当かかっていますが、将来的にはこれを負担することが難しくなってくると思います。人口が減少し、独り暮らしの世帯が増えている状況で、操法大会を維持することは大きな問題です。また、社員が多い現状では、操法大会の練習も非常に大変です。行政が企業と連携し、消防団員が会社からの理解を得やすい環境を作ることが必要です。

さらに、分団の再編成が避けられない状況にあることを考えると、これからの計画についても検討する必要があります。消防団の活動内容については、地域の理解が十分でない点もあります。地域社会が変化し、地域の共同体が弱まっている現状で、祭りや地域の行事も人が集まりにくくなっています。地域のつながりが薄れているのが現状です。

これらの問題を整理し、行政、消防団、地域社会それぞれの役割や問題点を明確にして、改善に向けた取り組みを進めるべきだと思います。行政としては、企業に消防団活動への理解を求めるアプローチも重要です。たとえば、欠勤扱いにならないような仕組みを作ることが必要です。将来的にはサラリーマンの割合が増えることが予想されるため、これを前提にシステムを整える必要があります。

また、地域での支援金についても考え直すべきです。現在、私の地域では100万円ほどの支援金がありますが、これを公費で補助するような形で見直すことも一案です。地域社会が消防団を支える形を維持するためには、適切な支援が必要です。社会状況が変化し、共同体が崩壊しつつある中で、消防団の役割や支援のあり方を

再考することが重要です。アンケートを基に、これらの課題を整理していくべきだと考えます。すみません、少し長く話してしまいました。

会長

ありがとうございます。今回のアンケート調査に基づいて、消防団のあり方や、市としての取り組み方についてご意見をいただきました。消防団が変わっていくべき点や、行政がすべきこと、さらには地域社会が変わっていくべきこともあるのではないかとのご指摘だと思います。

また、後援会と行政の役割分担についても見直すべきだという意見もありました。他の自治体では自治会や町内会が高齢化により役員を務めることが難しくなり、町内会の活動が減少している地域が多くなっている中で、災害時に特化した活動に集中するという動きも見られます。こうした変化に対応し、消防団と地域社会の協力関係を見直し、役割を再定義することが必要だと感じました。

災害時には住民の意識が高まりますので、こうした機会を活用して地域社会との協力を強化していくことが大切だと思います。ご意見ありがとうございました。他にご意見があれば、ぜひお聞かせください。

委員

先ほど話がありましたが、私も消防団に入団しようとした際、会社の上司に「消防団に入団します」と伝えました。すると、上司からは「顧客の前で急に出動するのか？ それができるのか？」と問われました。また、休みを取る理由として消防団活動を挙げることに對しても、「それでは困る」と言われたのです。上司の理解を得ることが難しく、説明しても納得してもらえない状況です。こういった問題に對して、誰が先頭に立って会社や職場に説明し、理解を得る体制を整えていくべきなのかが課題です。

一般の会社では、収益が優先されるため、消防団活動がマイナスと見なされてしまいます。これを打開するためには、消防団全体の組織として会社に働きかけ、理解を求めることが必要です。大会出場や訓練に関しても、組織として会社に説明しなければ、新たな若い人材は入団しにくいでしょう。また、家族に負担がかかることも問題です。特に若い世代は、休日に家族と過ごしたいと考える人が多く、訓練があると参加が難しくなる傾向があります。時代の流れに合わせて、訓練のあり方を見直していく必要があると感じます。

会長

ありがとうございます。ご指摘のとおり、サラリーマンの職場で理解を得るためには、個人の努力だけでは難しい面があり、行政側が積極的に方策を講じるべきだと感じました。

委員

最初の委員さんの話に関連しますが、ホームページやSNSでの呼びかけが1.4%にとどまっている点が気になりました。私も笠間市のメール配信を登録していますが、たとえば火災が発生した後、消防団がどのように活動したかが分かるような感謝のメッセージがあれば良いと思います。名前を出す必要はありませんが、「消防団が活躍しました」という情報を付け加えることで、市民の意識が変わるのではないのでしょうか。

また、TikTokやInstagramなどのSNSも活用できると思います。20代、30代の消防団員が多くいるので、そういったプラットフォームで活動を発信してもらうのも一つの方法です。私もTikTokで消防団を検索してみましたが、活動の大変さや素晴らしさを感じる内容があり、少し印象が変わりました。SNSでの呼びかけ方をもう少し柔軟にして、多くの人に親しみやすく発信できると良いのではないかと思います。

会長

重要な消防活動があった際には、消防団の活躍が市民に見えるようにすることが大切かもしれません。火災がありましたという情報だけでなく、その際に消防団がどのように貢献したのかを伝えることで、消防団の役割が一般の方々にも認識されるのではないかと考えます。

委員

消防団の訓練や大会についても、ただ大会のための訓練ではなく、実際の出動に役立つ訓練に重点を置くべきだと思います。現在の社会状況に合わせて、日曜日の訓練を減らすなど、若い人たちが参加しやすい方法を取り入れることで、消防団への参加意欲が高まるのではないのでしょうか。

会長

ご指摘のとおり、消防団の負担軽減と訓練内容の見直しについては、優先順位をどう考えるかが重要だと思います。ありがとうございます。

委員

今回のアンケート結果を見ると、さまざまな問題が浮き彫りになったと思います。特に、消防団に関する問題として、団員や分団長の意見を集めて議論を深める必要があると感じました。一方的に審議会で決定するのではなく、消防団内部でよく検討した上で、今後の方針を議論すべきだと思います。

委員

以前、分団の統合が行われた際には、分団長を中心に合併の方向性を話し合い、最終的に納得のいく形で進められました。今回も同様に、地元で活動している団員

の意見を中心に取りまとめ、合併の方向性を決めていければと考えています。合併に関しては、地元中心で進めるべきだと思います。

会長

実際に活動されている方々のご意見やお考えをしっかりと受け止めながら、地域貢献への思いを尊重し、一方的に何かを決めるのではなく、団員の方々の意見を踏まえて、地域の実情に合わせて進めていくことが重要だと思います。

アンケートの問 11 では、分団の人数が不足しているという回答が 40%に達しており、地域によっては厳しい現状があることが分かります。新たな若い団員の確保を進めていくことが求められていますが、それが難しい場合には、統合という選択肢も考えられます。しかし、その際には慎重に進める必要があると感じます。もし、皆さんの地域で同様の課題や経験があれば、ご共有いただければと思います。

委員

私は地元分団の後援会長をしているのですが、私たちの分団は市内で最も人数が少なく、7名しかいません。数年前に団員がごそっと辞め、その後任も見つからず、現在では7名しかいないため、何もできない状況です。地域の状況は厳しく、団員の確保が非常に困難です。近隣の分団と合併することも検討しましたが、なんとか団員を確保して合併は避けたいと言っていました。

また、若い人が全くいないわけではなく、例えば、地域のグラウンドでは若者がソフトボールを楽しんでいます。また、笠間市はゴルフ場が多いので、そういった場で、消防団の必要性や重要性をアピールすることが大事だと考えています。

さらに、先ほどの委員さんが言ったように、何かあった際には感謝の意を示すことが重要だと思います。私の近所でも昔火災があり、団員ではない若い人が2階にいた家族を助けましたが、その行為に対して感謝の表明はありませんでした。命を懸けた行動には、それ相応の感謝や評価が必要だと感じます。こうした経験を踏まえて、感謝の意を示すことが非常に重要だと思います。

会長

役割の重要性をどう伝え、若者の理解を高めていくかが、これからの課題だと思います。

委員

合併が唯一の解決策とは思いませんが、どうしても団員の確保が難しい場合には、合併も検討すべきだと思います。合併は難しい決断ですが、どうしても必要な場合には、現実的な選択肢として考えざるを得ないこともあります。

会長

この審議会で、合併の方向性を示すべきか、それともまずは実際に活動している

団員の声を拾い上げてから進めるべきか、委員の皆さんと相談しながら決めていく必要があると考えます。合併が必要かどうかは、現場の意見を反映させながら慎重に進めるべきだと思います。

今回のアンケート調査では個々の意見を集めました、団または分団として全体の意見をまとめていくことも重要です。時間はかかるかもしれませんが、各団を回りながら、団としての意見や課題を集約する作業も必要かもしれません。

アンケートだけでは拾いきれなかった団としての課題や意見も、しっかりと吸い上げていくべきなのかもしれません。

委員

審議会が出す結論には強制力はありませんが、今後の方向性を示すことは重要です。雰囲気としてどう進めるかを考えれば良いと思います。今後さまざまな意見が出てくるでしょうが、将来を見据えた方向性を示すことが大切だと思います。

委員

委員さん、ありがとうございました。私個人としては、現在の消防団は32個の分団と32台の消防車両を扱っていますが、個人的には台数を減らしたくないと思っています。大きな火災や水害が発生した時には、やはり消防車の数が必要です。だからできれば減らしたくないと考えています。

前回の大きな合併で47個の分団が33個に減ってしまい、もしもの時にどうしようかと不安に思っています。しかし、台数があっても操作する団員がいなければ、それは宝の持ち腐れです。そこで、有効に活用できる体制を今後作っていく必要があります。水害時にはハザードマップで危険箇所が分かるので、その時に適切な車両がどこに配置され、地域の人々を助けられるかを考えなければなりません。火災時にも同様です。大縄林業の時には、3地区で12時間交代で2日間、ずっと対応していました。

分団の人数が不足していると宝の持ち腐れになってしまいます。さらに、古い装備も多く、今後の更新が必要です。将来のために、予算も含めた長期的な計画を立てることが重要だと思います。みなさんのご意見をいただければと思います。すぐに統合ということではなく、将来設計を見据えた議論が必要だと思います。

分団長や副分団長の皆さんを含めて、会議を開き、アンケート結果を公表して意見を聞くことが大切だと思います。現在、分団長の方々は、自分の代で今まで築いてきたものを変えることに対して恐怖心を持っているようです。しかし、市民のためにどうするかを考え、協力体制と意識づくりを進めることが重要です。

会長

重要なお指摘です。アンケート結果を団員の方々にフィードバックし、全体としての結果を見てもらい、他の人がどう考えているのかを把握してもらうことが大切です。その上で、もう一度将来像について考えていただく機会を設定することが重

要だと思えます。人口減少が避けられない中で、将来の消防団のあり方を描いていくことが、この審議会の役割だと思えます。

委員

今、団長さんがおっしゃったように、消防団を減らすことは消防力の低下につながります。災害が多発したり、放火が頻発したりした場合、対応が難しくなります。ある事業所で発生した火災の時には、一町歩もの面積が燃えましたが、これは消防団の力によってなんとか対応できた経緯があります。そういう意味では、消防力を低下させたくないという気持ちは私も持っていますが、人数が不足している現実もあります。この問題を十分に検討し、団員全員で共有しながら、今後の対応を考えていくことにしていってはどうでしょうか。

委員

ある程度の訓練を続けることは重要ですが、通常の訓練を全員で行い、災害時に対応できるスキルを全員が身につけることが大切だと思えます。操法大会のための訓練ではなく、実践的な訓練を重視し、家族や個人に負担がかからないようにすることが必要だと思えます。

委員

操法大会については、笠間市だけの問題ではないと思えます。操法大会についての考え方を、事務局のほうで県内の各自治体に調査してもらえないでしょうか。現在の状況を把握し、どういう傾向にあるのかを確認することが大切だと思えます。

副会長

昔は各地区で1チームずつ大会に出場していて、現在は2チーム出動していますよね。今後、出場チームを減らすなどの検討をしてもいいのではなんでしょうか。そうすれば、少し負担を軽減することができるのではないのでしょうか。

委員

操法大会については、笠間市だけの問題ではないので、各自治体の考え方や実態を把握し、長期的な視点で考えていく必要があると思えます。今後のために、これをしっかりと検討していく必要があります。

事務局

承知しました。各自治体の状況について調査を行いたいと思えます。

会長

今、ちょうど「消防団員の負担」についての話が出てきましたので、大項目5の「消防団車両」については後回しにして、6番の「消防団員の負担」について、ご意見があればぜひお聞かせください。

副会長

毎年、私たちの頃は夏季訓練を夏に行っていました。聞いたところによると、現在では夏季訓練は平日の夜間に変更して実施してるんですか。

事務局

これまで日曜日に行っていた訓練を、平日の夜に集まりやすい場所で実施するようになりました。1個の分団だけではなく、2、3個の分団がまとまって消防署で訓練するという形です。

副会長

そうですね。以前は、休みの日に全団員を集めて大きな訓練を行っていましたが、暑い真夏の時期にやっていたため、負担が大きかった。それを変えたのですね。

事務局

そうです。団員の負担軽減のために変更しました。それともう一つは訓練への参加率の向上も期待してのことです。

副会長

夜間なら仕事を終えて帰ってきた団員も出席しやすくなりますね。

委員

時間も集中して2時間程度、7時から9時までに収める形で行っています。今年初めてこの方法を取り入れました。

副会長

良い取り組みだと思います。負担軽減のために効果があるのではないのでしょうか。

会長

問17の結果を見ていただくと、訓練が負担だと感じている方が30%、その他の行事が負担だと感じている方が20%となっています。この辺りは、セレモニアルなイベントが負担に感じられているのではないかと思います。実際に参加されている方々の意見をもう少し伺いたいです。

副会長

出初式の負担についての考え方はここにいる団の幹部の皆さんと団員の皆さんでは差異があると思います。若いうちはこんなに寒い中、長時間立ってなくちゃいけないんだと思ってましたし、でも年々役職や階級が上がってくるとその大切さがわかってくる。出初式というのは消防団として最大の集まる機会であり、消防団の

意識を高めるための大切な部分でもありました。この理解を今の若い方たちにどう伝えていくかが課題です。

委員

負担軽減の話ばかり進みすぎると、いざ出動時に団員の士気が低迷してしまう恐れがあります。あまり強く負担軽減を訴えると、意識が低下してしまい、団員の士気が下がることが懸念されます。かといって負担が大きすぎるのも問題です。バランスが重要だと思います。

委員

出初式の話が出ましたので、現状についてお知らせします。現在は、大池公園で成人式の翌日に開催しています。表彰や分団の分列行進、はしご車や消防団の消防車の展示や一斉放水など、市民へのPRとして非常に重要なイベントです。

他の自治体でも同様に行っていますが、室内での開催はPRの場を失うことになりますので、外での開催を続けたいと思っています。

委員

負担軽減を念頭において、訓練の方法を手探りで変更しています。出初式に関しては、みんなが一堂に会して、全員で寒いのを我慢するときは我慢する。PRの場として非常に重要だと思っています。

委員

出初式はどこの自治体でも華やかに行っていますよね。消防力を低下させないためにも、大事な行事だと思いますね。

副会長

負担軽減については、改革できるものは改革し、無理なものは維持するという捉え方で良いと思います。

委員

今の話を聞いている中で、負担軽減に関する問題点として最も大きいのは操法大会です。5か月間、週に3回のペースで行われており、これが一番のネックになっていると感じています。また、夏季訓練や秋季訓練については、技術向上を目指して全体で集まる必要はなく、部分的に実施する形でも良いかと思っています。これにより、団員の皆さんが都合の良い時間に消防署の協力を得て訓練ができるようになります。最近、基礎訓練を行った際に、中継訓練を希望する声があったため、2つの分団で自主的に中継訓練を行いました。基礎ができれば次のステップに進むことができるので、この取り組みを大事にしていきたいと思っています。

委員

この「消防団員の負担」に関して、他にも「団員同士の交流としての飲み会」という話がありました。確かに飲み会は団員同士の絆を深めるために重要だと思いますが、一般の方から見ると「また飲み会をしている」という印象を持たれがちです。最近では、飲み会を好まない人も増えていきますので、飲み会については各団に任せて、適切に判断してもらうのが良いのではないかと思います。

委員

飲み会については、各分団での歴史や伝統もあり、判断が難しいところです。私が地元の分団では、飲み物としてお茶が多く、昔のようにお酒が中心というわけではありません。車で来る団員も多いので、お茶やジュースが主流です。とはいえ、プライベートで集まる際に飲み会をすることもありますが、それは把握できない部分です。

委員

分団の決算書を見ても、今の若い団員は昔と比べて飲酒の習慣が変わっています。アンケートでは、飲み会が負担だと感じる意見もありますが、これは各地域の伝統に関わることなので、一概にどうこう言える問題ではないと思います。現代の若い団員は社会的な訓練を受けており、飲酒運転のリスクも理解しています。ですから、今の消防団は昔の「飲み会中心」のイメージとは異なると感じます。

会長

お時間が限られてきましたが、消防団員の負担についての話を続けます。最後に、消防団車両の話に戻りますが、現在の車両の更新や小型ポンプ積載車への移行についてご意見を伺いたいと思います。

委員

現在、ポンプ車は約2000万円以上の費用で配備していますが、その中で、小型ポンプ積載車への移行を検討しています。車両の更新に伴う費用や免許証の問題も考慮し、通常のポンプ車よりも運搬できる積載車の方が機動性が高いと考えています。ただし、現物を見てから判断したいと思っています。普通免許でも対応可能であり、小型ポンプ積載車の配置場所については分団長の皆さんと話し合いながら決めていく必要があります。

副会長

小型可搬ポンプについて、昔のものは手で運ぶようなものでしたが、山火事など、車が入れない場所での使用が主でした。そのため、中継をしながら山奥まで進むことができました。そういうイメージですよ。

委員

今の小型ポンプは車両に積んだままでも使用できるタイプで、自動車ポンプと同様に扱えます。

副会長

我々はポンプ車がそのまま水を吸い上げて消火するという認識があり、小型車がどう使われるのか、理解しにくい部分がありました。

委員

新しい車両では、小型ポンプを積んだまま使用できるため、普通免許で運転可能な団員でも消火活動に参加できるようになります。

副会長

現在ポンプ車が配備されている中で、それを他の車両に置き換えると、団員の中には士気が低下してしまう方がいるという懸念もあります。

委員

小型ポンプに関しては、従来の「4人で降ろして使う」という意識が根強く残っています。その使い方も可能ですが、設置したまま使用することもできます。

会長

技術的な問題や地域性の違いもありますので、これについては事務局に検討をお願いする形にさせていただきます。

委員

後援会費の金額についてですが、妥当な金額という基準が出ていないので、どの程度の額が適切なかがわかりにくい部分があります。

委員

地域によって状況が異なるため、統一的な基準を設けるのは難しいかもしれません。新しい方が加入する際には、その辺りをきちんと説明する必要があると感じます。

委員

新しく加入した方々は、金銭の使い方についても細かく質問してくることが多いです。昔のように感謝だけで済ませるのではなく、若い世代に対しても説明責任を果たす必要があると感じます。

委員

私も、指摘されたのは、やはり大きな企業で働いていた方なんですね。今では親しくなりましたが。その当時、私の地域の人は消防団OBも多く、分団の活動に対して比較的寛容でした。しかし、今の時代はそう簡単にはいかないんです。ただ、今の消防団の方々はみんな会社で訓練を受けているので、いい加減な決算書は作らない。だから、安心して任せられますし、ちゃんとパソコンを使ってきちんと整理しています。その意味では、地域の方の感覚も大きく変わってきていて、これは良いことだと思います。私が適当にやっていた時代とは違って、本当によくやってくれていると感じます。

副会長

今は、消防署ができたでしょう？昔は消防署がなく、分団が消火活動を担っていた地域もありました。その時は分団がなくてはならないもので、一生懸命やっていました。しかし、公共の消防署ができてからは、消防署があるのになぜ分団が必要なのかという部分が理解されていないんです。消防署が消火活動を担うのは当然ですが、それを維持していくための支えとして分団が必要なんです。消防署だけではなく、分団も地域の安全を守るために必要だという意識が住民には薄れているんです。

委員

その点で、今日お願いしようと思っていたのが、消防団の分団の役割についてです。例えば火事が起きた現場では、初期消火は消防署が担当しますが、その後始末は分団にお願いしています。このように、消防署と分団の役割をきちんと整理しておかないと、住民に説明できません。実際にうちの分団でも1日に2回消火活動を行ったケースがありました。消防署の方で、消防署と分団の役割分担を整理して、住民に「消防署があっても、分団がやらなければならないことがあるんですよ」という説明をする体制を整える必要があると思います。

副会長

後援会というのは、「こういう活動をしているから必要なんだ」ということで理解されるものです。いわゆる後援会費がなぜ必要なのかという疑問を少しでも減らし、みんなが「自分たちの安心・安全を守ってもらっている」ということを伝える必要があります。

委員

その通りですね。説明が重要です。そして、もう一つは、独り暮らしの人が多い地域では、消防団費は払いたくないという人がいます。でも、火事が起きた時に助けてもらうのは地元の消防団です。ですから、消防団は地域にとってなくてはならない存在だということを、周知徹底して理解してもらうために、消防団の役割をき

ちんと整理して、事務局でまとめてもらいたいと思います。そうすれば、説明しやすくなります。余計な話をしてしまってすみません。

もう一つなんですが、区では会費を集める時に、区に入っている人は会費を払うけれど、区に入っていない人が火事に遭った時に、「じゃあ消防団にお願いするの？」ということになります。区に入っている人と区に入っていない人の会費に差があるのは不公平だという意見もあります。そこをよく理解してもらわないと、消防団は火事の際に「区に入っていないから助けけない」というわけにはいきません。しかし、全員から会費を集めるのが本来の筋だという人もいます。そういった問題を我々が説明する時に、「団員の方が一生懸命やっているから」というしかありません。

会長

「見える化」というのが一つのキーワードだと思います。活動や消防団と消防署の役割について、「見える化」をどう進めて理解を促進するのか、それが新たな消防団員をどう繋げるかに関わってきます。

それでは、お時間になりましたので、これで終わりにしたいと思います。次回も懇親会などを続ける予定ですが、まずはこの案件の結果を団員の方々にフィードバックしていただきたいです。地域全体としての見解を伝えていただき、その上で、個人ではなく団体としての意見集約を行ってください。また、先ほど指摘があったように、行政、消防団、社会それぞれの役割分担を整理する必要があります。消防署と消防団の役割分担も明確にし、次回に繋げたいと思います。以上でよろしいでしょうか。今日は少し時間を過ぎてしまいましたが、ご協力ありがとうございました。では、事務局にお返しします。

事務局

会長、ありがとうございました。ここで一応、次第の第4項「その他」の部分ですが、ご意見は出尽くしたということでよろしいでしょうか。（一同：はい）。それでは、今、会長がまとめていただいた内容を事務局で取りまとめし、今後の消防団の方向性も含めて話し合いを進めます。そして、次回の第3回会議において、その内容をご提示できるように準備しますので、その際にはまたご通知をお送りします。

それでは、以上をもちまして、第2回町消防団審議会を閉会とさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。

どうもありがとうございました。